

2021 年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4072400312		
法人名	株式会社コスモ		
事業所名	グループホームコスモ	ユニット名	1号棟
所在地	筑後市高江72		
自己評価作成日	2022年3月11日	評価結果市町村受理日	2022年5月9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般財団法人 福祉サービス評価機構		
所在地	福岡市中央区薬院4-3-7 フローラ薬院2F		
訪問調査日	2022年4月22日	評価確定日	2022年4月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

- ・ご利用者が「出来ること」を役割として職員とともに行って頂く。
- ・ご利用者、ご家族の外出や趣味、楽しみ等の夢を引き出し、実践することが出来る。
- ・ご利用者の美容室や思い出の場所等、昔の繋がりを大切に「人・場所・思い」を大切にする。
- ・地域、ご家族を含め季節行事を行っている。
- ・家族会を通し、家族支援やご本人との関係性が良好になるよう個別相談を行っている。
- ・ご利用者の有償ボランティア参加。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

“グループホームコスモ”は2021年3月から新体制になっている。系列で同年3月に開設した“グループホーム南十字星”が、2021年11月に“コスモ”のサテライトとなり、運営人員体制の更なる体制変更が行われた。全体を統括する専務を中心に、法人全体の新たな組織図が作られ、グループホーム全体の施設長（管理者）・主任・介護支援専門員・計画作成担当者・看護師・全職員が結束し、更なるチーム作りを始めてこられた。2021年度から新人職員も増えており、職員個々の有する能力を発揮できる環境として、委員会を4つに増やし、2022年度は更なる教育・育成体制を充実させていく予定にしている。「介護より快護へ」という理念の実践も大切にされており、アセスメント用紙の改良も行われている。ご利用者の笑顔を引き出す取組みも日々行われており、畑作りも再開し、ご利用者とスタッフで作業をすることができた。笑顔の写真も増えており、手紙を添えて家族に郵送している。”グループホームコスモ”は2023年（来年）に開設20周年を迎える。多くの方に支えられての年月であり、代表取締役（社長）と監事取締役が立ち上げ、多くの職員と紡いでこられた地域貢献を、これからも繋いでいく予定である。

自己評価および外部評価結果

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を込めた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「理念に基づいた行動指針」を掲示し自己啓発を図る。	2021年3月から新管理者になっている。現場で介護職として勤務後、管理者に就任されており、コロナ対応も乗り越えてきたチームでもあり、結束も強い。入職した職員にも個別に理念等を伝えている。「介護より快護」には、「自分らしく」「快適に」という意味が込められ、ご利用者に日々の役割を担って頂いている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍である為、地域とのつながりがほとんどできていないが、月に1回「こすも便り」を地域に配布している。コロナ前は年に2回近所の小学校との交流があったが今年は生徒が作成したものを持参された。	コロナ前は、ご利用者と他のホームに出前講座(たまねぎ染物教室等)に出かけたり、小学校や保育園等の運動会、グラウンド大会、地域福祉大会(敬老会)、公民館清掃等に参加していた。小学生福祉体験(年2回)では車いすを押す体験等をして頂き、ゲーム等も楽しまれていた。コロナ禍も廃品回収の分別等に参加したり、小学生が作って下さった折り鶴を先生が届けて下さった。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍である為地域貢献がなかなかできていないが、コロナ前は社会福祉協議会との連携で有償ボランティアとして近所の草取りへ参加していた。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回本社にて運営推進会議を開催しており入居状況や事故報告、ヒヤリハット事例を報告し意見や質問を聞かせて頂き運営向上へ繋げている。	ホームの取組み等を報告し、コロナ禍における地域の課題を共有している。外部評価(自己評価)結果も報告し、「大変な取り組みですが、良いことだと思います」「私もこすもにお世話になろうかしら」等のメッセージを頂いた。今後もテーマに応じて、小学校教員やスーパーの職員の方々の参加も検討し、認知症の理解を共有すると共に、地域の方との情報交換を深めていく予定である。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	日頃から密に連絡を取れていないが、事業所で判断できかねる事は不定期ではあるが連絡を取っている。	運営推進会議に市の課長等や地域包括の職員が参加して下さり、ホームの実状を理解して下さっている。専務等が中心になり、系列ホームのソフト化に向けた市との協議や、コロナ対応等のアドバイスを頂いている。専務も市からの依頼で研修講師を務めている。コロナ前は小学生等への認知症ホームケア養成講座やホーム見学の受け入れ協力も続けていた。	

6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	690委員会（虐待防止委員会、ヒヤリハット）をグループ全体で設置しており、年に2回は身体拘束をしないケアの全体研修会を実施している。又外部研修がある際は積極的に参加している。	穏やかに過ごされている方が多い。行動障害が見られる際は原因分析し、ゆっくり傾聴したり、一緒に散歩などをされている。症状に応じて医療連携を強化し、日々のケアに活かしている。法人全体で「690（ロックゼロ）委員会」を開催しており、身体拘束ゼロの継続に向けた実状報告と共に、虐待防止委員会、ヒヤリハットの分析等も行われ、全体研修を年2回行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内外の研修参加や事業所内での「不適切ケア」についての虐待防止の啓発に努めている。又、委員会の活動でスタッフのストレスケア等の研修も実施している。		
自己	外部		自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修への参加を通して権利擁護・尊厳の大切さを学ぶ機会を設けている。	権利擁護に関する内部・外部研修に職員が参加している。制度に関する資料を準備し、入居時に説明すると共に、ご利用者個々の制度の必要性を検討している。必要に応じて家族の相談に応じ、制度利用のメリットや費用なども説明する予定である。後見人との情報交換も続けている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所契約の際は十分に時間をかけご家族が理解、納得して頂けるまで説明している。又入居申し込みの時点でも細部にわたり説明し随時相談も受け付けをするように努めている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	事業所に意見箱を設置しており随時苦情やご意見があった際は受け付けている。又、入所契約の際にもご家族へ説明している。	職員が手紙を書き、写真を同封して郵送している。写真入りの広報誌で毎月の暮らしぶりを報告し、面会時等に家族から要望を伺っている。コロナ以前は、年3～4回の“家族会”を行い、ホーム行事（そつめん流し等）の企画から協力して下さっていた。コロナ禍においても、「ご利用者と家族の思い出作り」に努めると共に、気軽に意見を伝えて頂ける関係作りを大切にされている。LINEでも対応できることを家族に伝えており、インスタグラムも行い、より多くの写真を掲載しているが、個人情報管理にも努めている。	

11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	必要時スタッフへ面談を行い意見や提案を聞く機会を設けている。必要であれば上司に報告し改善提案をしている。	2021年3月から新体制になり、更なる業務改善を続けてこられた。スタッフの離職も経験し、チーム丸となってコロナ対応も乗り越え、チームワークは更に良くなっている。会議や職場内研修はZoomやLINE電話も活用し、参加率アップに繋げている。スタッフの意見やアイデアを引き出すと共に、適宜社長・専務に相談し、最適な方法の検討が行われている。2022年度から法人全体の委員会を4つに増やし、更なる活動に繋げていく予定である。	スタッフの更なる教育や育成を行う機会を増やしたいと考えている。法人全体で教育委員会を発足予定であり、4つの委員会活動を通して人材育成やスタッフの結束に繋がると共に、福利厚生の実質化を検討し、働きやすい職場作りに努めていく予定である。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業規則、労働条件の変更、見直しに労働基準局と協議しながら整備に努めている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	事業所及び個人の目標設定を行い自己評価や面談の中で意見を取り入れ能力開発や自己実現に取り組んでいる。	専務が面接しており、「自分が介護するにあたって大切にしていること」「自分がケアをしている時のルール」を重視して尋ねている。ご利用者の事を第一に考え、ご利用者と一緒に日々の生活が行える職員を採用している。資格の有無は問わないため、採用後に研修を行うと共に、職員個々の特技（優しい・明るい・レクが得意・農作業が得意等）を發揮して頂いている。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	研修やミーティングを通してその都度取り組んでいる。	理念にある“快護”の真の意味を共有するように努めている。管理者や主任が中心になり、日々の挨拶の大切さを伝えると共に、「何もしないことが“快護”ではない」「利用者主体とは何か」「自立支援」を職員と考え、ご利用者の尊厳、言葉遣いや守秘義務、意思決定を大切にすることを職員と共有している。	
自己	外部		自己評価 実践状況	外部評価	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、動きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修の参加を随時行いOJTとOFF-JTの活用に取り組んでいる。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県、市、各研修会の参加を通して得た知識や気づきを事業所内の質の向上へとつなげている。		

Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

17	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前よりご本人やご家族へニーズの聞き取りはもちろんのこと、過去の趣味・生活歴等から支援方法を探り、実行していくことでご本人との関係性を構築することにつなげている。		
18	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の介護に対する負担や困り事に耳を傾け、ご利用者の認知症症状や健康状態を把握することで信頼関係の構築に努めている。		
19	○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご利用者の認知症症状をまず把握し、ご利用者のニーズとご家族のニーズを照らし合わせ、職員と情報共有し支援方法を決め対応している。		
20	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物たたみや食器洗い等の家事を職員と一緒に行っていただき、ご利用者が「できること」「したいこと」に着目し役割として行って頂いている。		
21	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍でなかなかご家族との外出、外泊、面会等が制限されあまり実施できていないが、制限が緩和している時期はご家族戸の外出や職員付添いで家に帰りご主人と面会される等実施している。		

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍で馴染みの人との交流はなく、今のところそういった関係継続はできていない。	入居前に介護支援専門員・看護師などが自宅訪問している。生活歴や趣味、暮らしぶり等を教えて頂き、アルバムも拝見している。コロナ禍も面会制限が緩和している時期は、家族との外出や職員付添いで自宅に帰り、ご主人と面会された方もおられる。ご利用者の意向を伺いながら、職員と一緒に年賀状も作成している。コロナ以前は小学校時代の友達が来て下さり、家族と外食や温泉、思い出の土地巡りやお墓参りに行かれていた。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者同士の状況に応じ必要であれば職員が間に入り支援している。また、ご利用者同士が顔なじみの関係になられており部屋を歩き来したりされている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	今のところサービス終了後はご利用者やご家族の経過をフォローできていないが相談があれば支援していきたい。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	まずはご利用者に入所生活に対しての思いや希望、やりたいことをお尋ねしている。ご本人に聞けない場合はご家族からも聞き取り、把握に努めている。	入居前は自宅訪問したり、入院中の方は病院訪問し、情報交換を続けている。ご本人・家族と情報交換し、暮らしぶり等を報告しながら、思いや要望の把握に努めている。日々の生活でも食事の要望や「トイレは1人でいきたい」「春物の洋服を買いたい」「お饅頭を食べたい」「家族と電話したい」等の要望を引き出し、叶えるように努めている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	関係機関のフェイスシートの情報やご家族から情報の聞き取りを行い、ご利用者の全体像の把握に努めている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ADLやIADLの評価、ご本人のニーズに対する評価を3か月に1回行い現状の把握に努めている。		

28	(13)	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>コロナ禍で担当者会議を設ける際にご家族の参加ができていない。電話連絡や面会制限緩和時に面会があった時に意見を伺うように努め介護計画を作成している。</p>	<p>生活歴、有する能力、介助理由等もアセスメントし、ご本人と家族の要望を伺っている。ご利用者の生活習慣等を尊重し、「できること」「行いたいこと」を引き出すように努めている。介護支援専門員・計画作成担当者・全スタッフと話し合いをしており、敷地内の畑の野菜作りの機会も増やされている。体調変化に応じて計画の見直しを行い、主治医・看護師・作業療法士からのアドバイスも頂いている。</p>	<p>①生活歴や介助理由等もアセスメントに残しており、今後も事故報告書の記入時に「事故の原因」を追記し、再発予防に繋げていく予定である。</p> <p>②アセスメントには日々の活動の有する能力の視点も盛り込まれている。今後も「IADL等のできそうなこと」「好きなこと」「役割」「要望」等の記入を増やし、介護計画と連動させていく予定である。</p> <p>③今後も介護計画作成に向けた話し合いを家族と行っていく予定である。</p>
自己	外部		自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>タブレット端末で記録しており、情報共有事項は申し送りでスタッフへ周知している。介護計画の見直しが必要な時は担当者会議とは別に随時ケア会議を実施している。</p>		
30		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>「したい」けど「できない」ではなくまず「やってみよう」で取り組んでいる。</p>		
31		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>コロナ禍で地域資源との協働ができていない。</p>		
32	(14)	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>ご利用者のご家族の希望を重視し、主治医との連携を図っており必要であれば専門医の紹介をして頂き適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>サテライトの“グループホーム南十字星”に看護師が勤務し、“こすも”にも週1回訪問し、24時間のオンコール体制ができています。内科医の往診もあり、病状によって認知症専門医等に受診されている。主治医にタブレット端末で皮膚状態の写真を送信し、指示を仰ぐこともある。法人内に作業療法士が勤務し、リハビリの指示を受けられ、事故予防に活かしている。職員の気づきも増し、早期対応に繋げている。</p>	

33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	サテライトの事業所に正看護師がいるため、状態変化に対して早期発見、早期対応に努めている。夜間帯の状態変化の際も24時間オンコールにて対応している。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご利用者が入院された際、定期的に入院先の病院のSWと連携を図り情報交換に努めている。又、退院前は入院先の病院へ訪問し情報収集している。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所契約時にご家族へ看取りの説明をし、ご本人やご家族の意向を確認している。実際看取りへ移行する際はもう一度ご家族の意向を再確認している。又、主治医と連携を図りニーズに沿った支援が出来るように務めている。	『尊厳を大切に、最期を迎えるその日まで家族と共に「私の人生」を大切にしたい援助を实践する』等を終末期ケアの方針として掲げており、重度化に向けた方針も作成されている。「ここで最期まで・・・」と希望される方もおられ、家族、主治医、看護師、訪問看護師等との話し合いを続けている。コロナ前は家族も一緒に寄り添い、温かいケアが行われており、コロナ禍も家族との時間を大切にされる予定である。	
自己	外部		自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時のマニュアルを作成し、緊急連絡体制についてミーティング等を通して周知、再確認を図っている。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難方法の周知はできているものの、地域との協力体制はできていない。	2021年7月は昼間想定、2022年1月は夜間想定で避難訓練が行われた。ご利用者と一緒に避難訓練をしており、車椅子利用者の避難方法（ツツにくるむなど）の再確認も行われた。災害対応マニュアルも作成し、運営推進会議等で自然災害等の対策を情報交換している。災害時は系列の配食事業所の食材を使用でき、ルームにも飲料水、食料、懐中電灯などを準備している。法人全体でBCP（事業継続計画）を作成中で、各事業所の計画作成に繋げている。災害時に地域の方の受入れを行う予定であり、BCPに盛り込む予定である。	

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

38	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	介助をする際は常にプライバシーを配慮した対応を心掛けている。声かけに対しても丁寧な言葉づかいや声の大きさの強弱に気を配り対応に努めている。	日々の挨拶を大切にされている。ご利用者が年長者である事を意識し、「介護＝自立支援」である事を共有すると共に、援助者という立ち位置で介入していないかの振り返りも行われている。言葉遣いが気になる場合は声かけを続けている。「主体性のご利用者にある」事を、ご本人にも理解頂くように努めている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活を送っていただく中でご利用者が発する言葉や日々のコミュニケーションを図ることで思いや希望を聞き取り自己決定できるように努めている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	極力業務優先とならないようにご利用者の訴えに速やかに対応できるように心掛けている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居前にご家族へ情報提供等の協力は依頼しているが、その人らしい身だしなみやおしゃれまでは実施できていない。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の盛り付けができるご利用者と一緒に実施することがある。皿洗いや後片付けに関しては曜日ごとに役割分担表を作成し日替わりでご利用者にお手伝いして頂いている。	系列の配食を利用し、ご飯とみそ汁はホームで作られており、ご利用者も配膳、下膳、食器洗い等をして下さる。手作りする日もあり、ご利用者に献立を考えて頂き、包丁で食材を切ったり、魚をさばいて下さっている。手作りのおやつも一緒に作り、「だんご」をごねて下さり、ご利用者の要望に応じて、ピザやお寿司を買いに行かれています。畑での野菜作りも再開し、玉ねぎ等を栽培していく予定である。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	配食サービスを利用している為栄養バランスは整っていると思われる。水分量に関してはいつも同じ飲み物で対応せずバリエーションをお豊かにそろえている。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後歯磨き促し清潔保たれている。自力のできる方は促し、動作機能の維持に努めている。必要に応じ介助している。義歯の不具合や口腔内に異常がある際は歯科往診の依頼をしている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご利用者一人一人の排泄状況に応じた介助を行っている。又、尿意・便意の訴えがある方に対しては二人介助しトイレでの排泄を促している。随時その方にあったパッドの見直しを行っている。	尿意・便意のシグナルを察知するように努めている。下着を着用し、排泄が自立している方もおられる。失禁減少に努めているが、ご本人の自尊心や「自分でしたい」という思いを大切にされたケアが行われている。ご本人の排泄パターンを見直すと共に、声かけのタイミングやパッドの当て方を再確認し、パッドの使用枚数が減った方もおられる。車いすの方も、昼夜ともトイレにお連れする方もおられる。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ご利用者それぞれの体重に応じた水分量を把握し目標水分量の目安としている。状況に応じ主治医へ相談し下剤等を使用し排便を促している。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的に2日に1回のペースで日程を設定しているがご利用者の要望に柔軟に対応できるように努めている。	1人で入浴できる方には羞恥心に配慮し、外で見守る方もおられ、希望に応じて朝や夕方入浴も行われている。湯舟が深く、浴槽内に安定した椅子を入れて段差を作られたり、スライディングボードも利用しており、体調に応じて2人介助も行われている。入浴時は職員との会話が弾み、柚子湯等も楽しまれている。脱衣所に簡易ベッドを購入し、おむつ交換等に活用している。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	1日を通してご利用者のその時の気分や状態に応じて自由な時間に休息して頂いている。夜間帯でも眠れない方には眠たくなるまでリビングでゆっくり過ごしていただくようように対応している。		

49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師と連携を図り内服薬の管理と把握に努めている。又、内服薬の調整も主治医と連携して随時検討している。内服薬の変更や注意事項がある際は随時職員へ周知している。		
自己	外部		自己評価 実践状況	外部評価	
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食器洗いは役割分担表を作成し曜日ごとにご利用者の役割として実践している。廊下のふき掃除等も声かけしご利用者と一緒に行っている。気分転換としては天気の良い日の散歩やドライブを実施している。		
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍でありなかなか希望に沿った日常的な外出支援が出来ていない。	田園周囲を散歩し、地域の方とお話しをされたり、玄関先で草取りをされる方もおられる。季節の花見ドライブを楽しまれたり、受診の帰りにドライブをされている。近くのお寺に初詣にお連れすることもでき、正月に家族と自宅に帰られた方もおられる。コロナ以前はサザンクス筑後の芸能鑑賞や「よらん野」での買い物、「萬年屋（はねや）」での昼食と共に、筑後の野球場で野球観戦をされたり、船小屋の“恋ぼたる”の足湯や柳川の川下り(手作り弁当持参)にお連れしていた。家族も一緒に桜の花見や温泉、いちご狩り、ホテル観賞等を楽しまれていた。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に金銭管理は施設で行っている為、自己管理の支援まで至っていないが、ご本人がある程度は持っていたいという希望がある方に対してはご家族へ説明し自己管理しているご利用者もいる。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じ自由に応じている。(時間帯は考慮しているが)年賀状はご利用者の意向を伺いながら職員と一緒に作成している。		

54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングで過ごされる際の温度調整や必要に応じて入る光の調整を随時行っている。トイレや風呂場はご利用者が分かりやすいように目印を作っている。	台所は対面式で、職員との会話を楽しませている。テラスも設置し、椅子を置いて和める空間にしている。リビングは適宜換気を行い、ご利用者の体感温度を重視した空調管理を行っている。1号棟から2号棟に遊びに行かれる方もおられ、リハビリの機会になっている。コロナ感染の経験後、気分一新の目的もあり、照明をLEDに変更し、リビングのソファ、カーテン等も新調した。レイアウトも変更し、雰囲気更に明るくなっている。リビングの模様替えや雰囲気作りを行う際は、ご利用者に1つ1つ確認しながら行うようにしている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングで過ごされる際のソファの向きやテーブルの配置を必要に応じて工夫している。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	必要であればご家族へ使い慣れた物品や思い出の写真等の持参依頼をしている。	居室の名札を手作りのものに変更している。家族との会話の中で馴染みの物を思い出していただき、持参してもらっている。衣装ダンス、テレビ、使い慣れたラジオ等と共に、趣味で作られた裁縫の作品、家族等の写真も飾られている。仏壇も置かれており、手を合わせている。綺麗好きな職員ばかりで、居室の換気や掃除も行い、ご利用者と一緒に洗濯物を箆笥に入れている。	
自己	外部		自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自室がわからない方に対しては目印になるものを居室入り口に飾り分かりやすく工夫している。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				